

力を発揮するチャンス～周りに変化が起こるとき～

校長 阿部 英幸

早いもので今日で1学期が終わりました。この1学期の間に、子どもたちは様々なよさを発揮しました。元気な挨拶をしてくれる子がたくさんいます。誰にでも明るく声をかけたり、質問にしっかりと答えたりすることができます。友だちや授業でお世話になった人にいつも感謝の気持ちをもって活動しています。自分で考えて行動する姿が見られます。

このような多くのよさを発揮できる子どもたちです。明日からの夏休み期間中でさらに新たな力を発揮してほしいと思います。

ある大学の先生が働きアリを観察していた時、働きアリなのに全く働かないアリがいることに気づきました。そこで、働かないアリだけを集めて観察してみると、働かないアリの中から何匹か働くようになったそうです。そこで、今度は働くアリばかりを集めて観察してみたところ、今度は働かないアリが何匹か現れたそうです。



この結果から言えることは、働くアリと働かないアリの違いは、働く力があるかないかとは関係ないということです。つまり、働く力があるから働いているというわけではないということなのです。

アリと人とを簡単に比べることはできませんが、例えば、おとなしかった子が環境の変化によって急に積極的になったりすることがあります。ということは、人もその人に力があるからできて、力がないからできないということではないように思えます。つまり、人にはもともと様々な力が備わっていて、その力は誰でも発揮することができるということです。

では、もともと備わっている力はどうすれば発揮できるのでしょうか？アリの観察から考えると、働かなかったアリが働き出したのはそれまでとは違う集団に入ったことが原因と考えられます。つまり、周りに変化が起こるときが新たな力を発揮するチャンスなのです。

夏休みは大きく生活が変わります。今までは毎日学校に通っていたのが、学校に通わなくなります。先生から勉強を教えてもらうのではなく、自分で勉強します。普段できない体験をたくさんすることができます。このように、周りに大きな変化が起こる夏休みが、今までにない力を発揮するチャンスだと思います。子どもたちが充実した夏休みを過ごし、新しい力を身に付けて2学期登校してくることを楽しみにしたいと思います。